

MT Z06090T66 (1) 徳

科学の中の人間

昭和四十年十月二日 十五—十六日

徳島大学演習にて

徳島の思い出—昭和十三年、二十八年前—徳

島中学—三十一才—それ以後 西回らんかきている

—長谷川学長

人間の遺伝と環境—自然的環境—家族

母親、父親、兄弟姉妹、親—学校、友人—

このほか、^{社会的環境}、^{生活の}、^{昔からの}、^{自然的}

環境と^{環境}、^{環境}の比喩が 大々くなってくる

C021-180-120-020
[Z06090T66-2(MT)]

肩の
木立の中
そよよと
あーいー
あーいー

— 小さい子供のとすから「レ」の
— 書いた人肉と他が私のように
— させられた人肉とは、一紙どの
— 間に生かすであらうか — 第二の
— 科学文明の進歩によって、
— かわたてられる — 機械を
— 接する — 汽車のおまじに
— アスファルトやコンクリートで
— の下に生かすの土がある —
— したから — 環境も自然と
—

し、付録の中にあった素材からつくりだされた
し、それか人々の思い通りに郵送するのは
人々の知見を蓄積したからである(物理学)
し、また自然の中にある素材を利用でき
ようになったのは、^{金所}↓^{化学}↓^{技術}↓
工業の発展による人々の知見の蓄積である(国
の発展)の発展の中にもっと蓄積していった可
の発展と教育の発展である。
科学の発展のつくりだしたものである(国
の発展)の発展の中にもっと蓄積していった可
の発展と教育の発展である。

「付録」

物理学

けいけい
何故か
— 天災がある — 平和を懸ける、海軍のための
力加振を新機軸の推進によって、より多くの場合
ついで可視になり、秘気と逸考
人災の塔を — 公害 — 核兵器 — 水色
子故 — 科学者の社会的責任 — 平和のための
の活動 — 科学と逸考 — ヒューマンと逸考
の線をおし、人災は科学への持統
御慕うち — 自然は強い、まだ未知なる也

